

令和8年度 全国学力・学習状況調査及び佐賀県小・中学校学習状況調査の結果の公表にあたって
武雄市教育委員会

武雄市は平成24年度から学校ごとに公表した学習状況調査の結果をまとめて、市のホームページで公表してきました。

今年度も保護者・地域住民の皆様に学校の現状と取組、武雄市の取組が分かっていただけるように公表を行います。

学校教育は、「知・徳・体のバランスのより高い調和」を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。また、日々成長している子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け、指導方法の新たな検討、校内研修の活性化等に取り組めます。

保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）の結果をお知らせすることにより、武雄市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思います。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回、学習状況・意識調査を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

公表は、小学6年生、中学3年生は全国学力・学習状況調査、その他は佐賀県小・中学校学習状況調査の結果です。

全国学力・学習状況調査は、「知識」に関する問題と「活用」に関する問題を一体的に問う問題の調査となっています。

各学校のホームページには、学校ごとの分析と改善に向けた具体的な取組を掲載しておりますので、あわせてご覧ください。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 小学校（11校）全体

(1) 学習状況調査結果の推移（小学校）

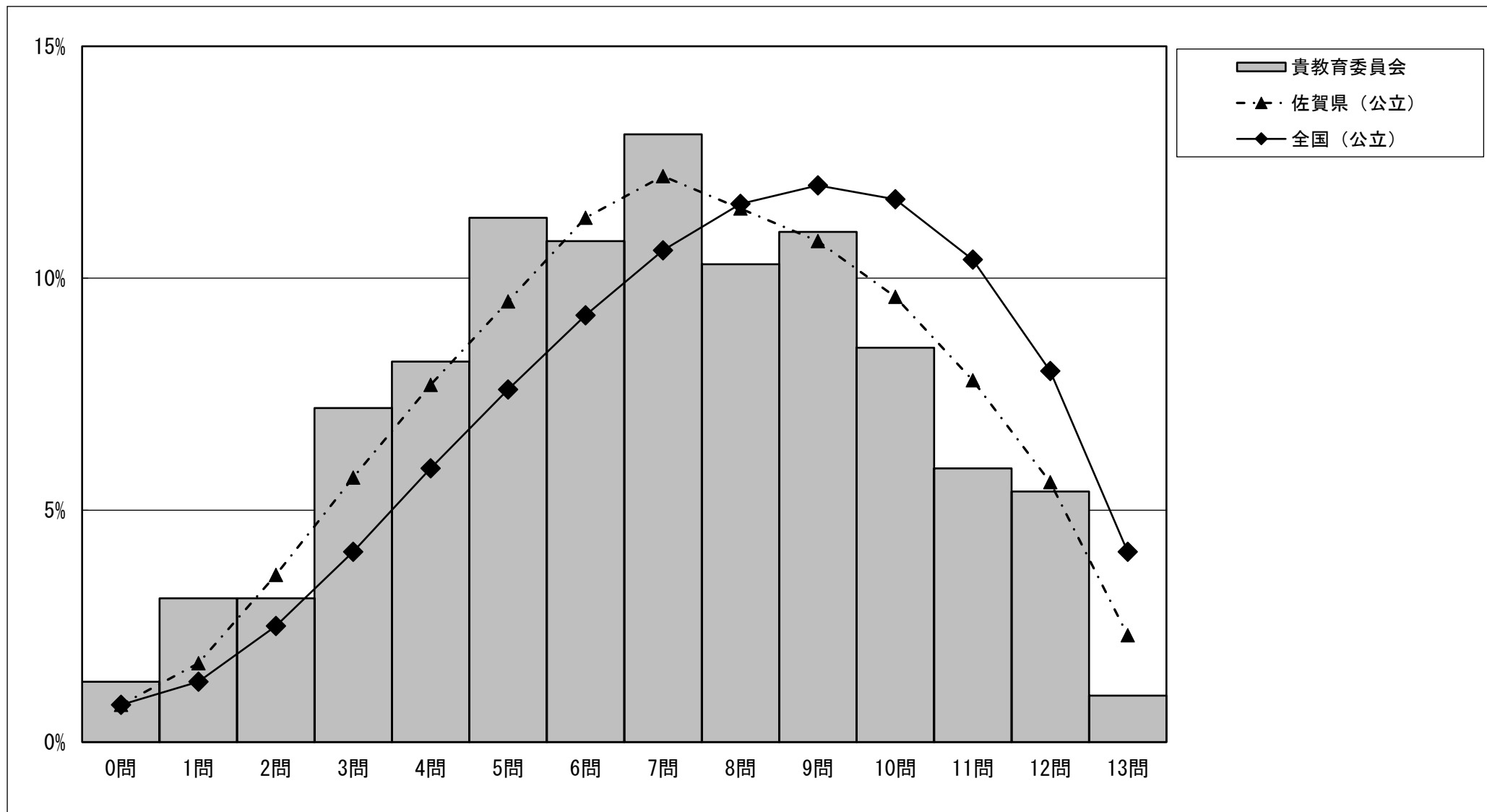
R3 入学 現 6 年生	国語		算数	
	5 年時	6 年時	5 年時	6 年時
	県	全国	県	全国
	61.8	53	61.3	50
	(1.01)	(0.95)	(0.99)	(0.96)
R8 正答率の全国比		0.87		0.89

◎ 5 年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、6 年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を 1 としての比較。

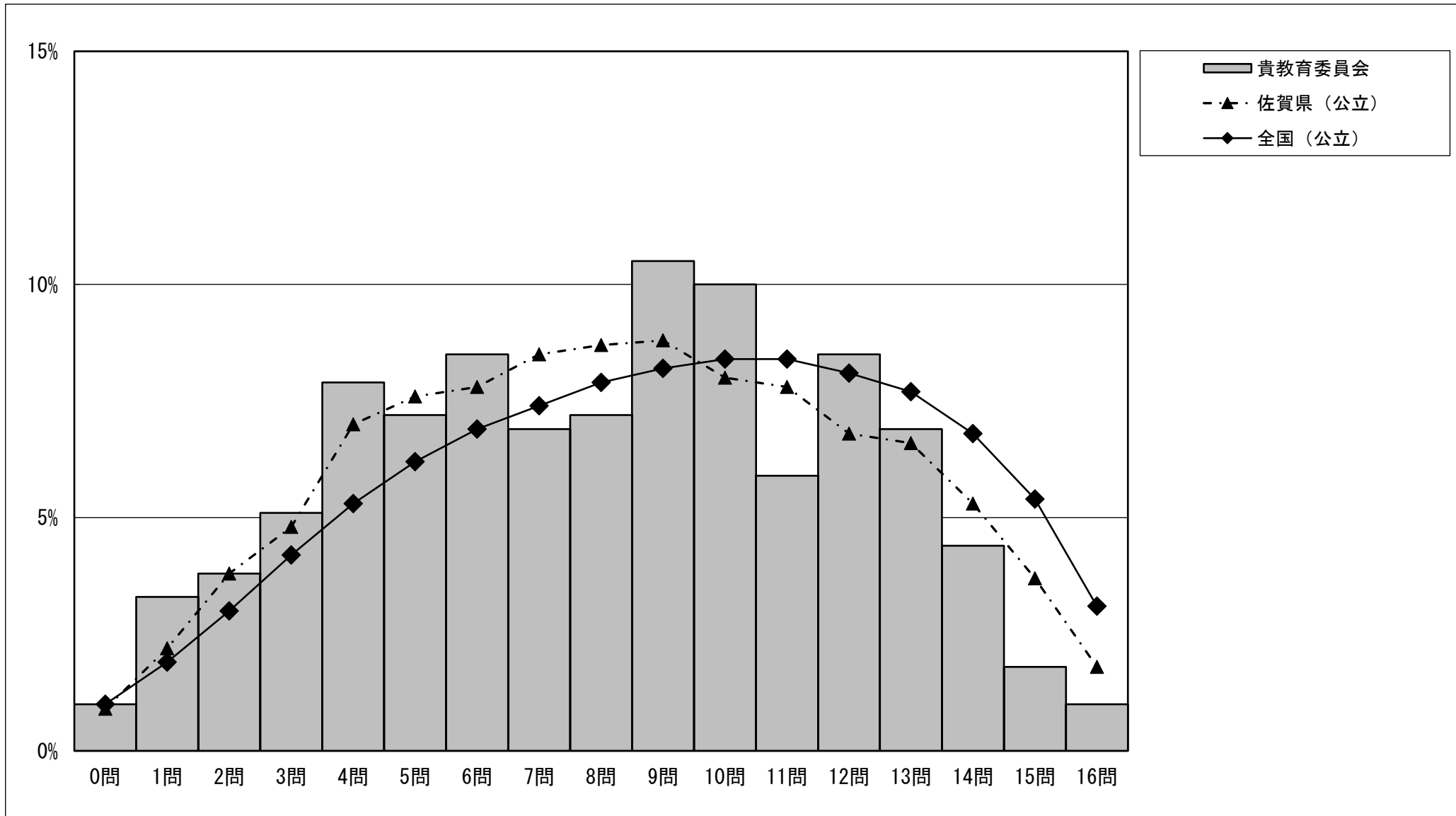
◎ 「令和 8 年正答率の全国比」は全国平均を 1 としての比較。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6国語）



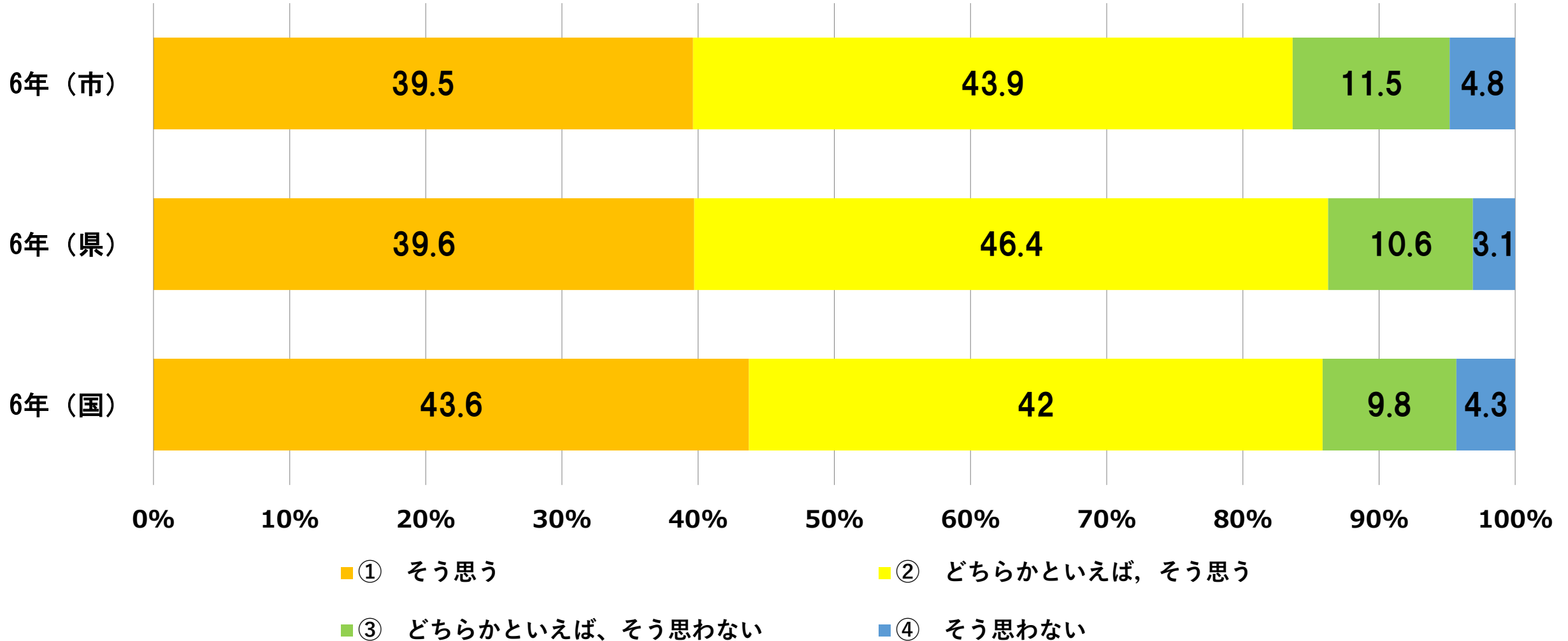
文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（小6算数）

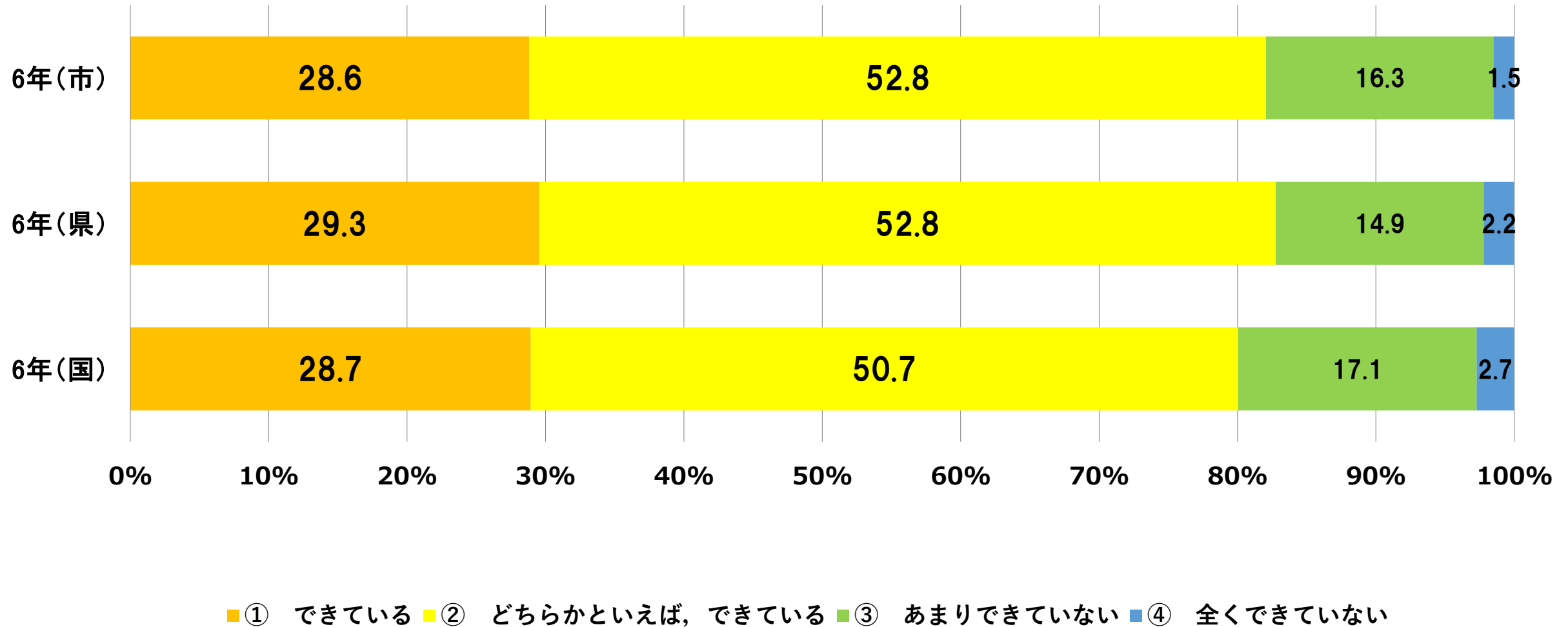


文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査（小学校）結果より

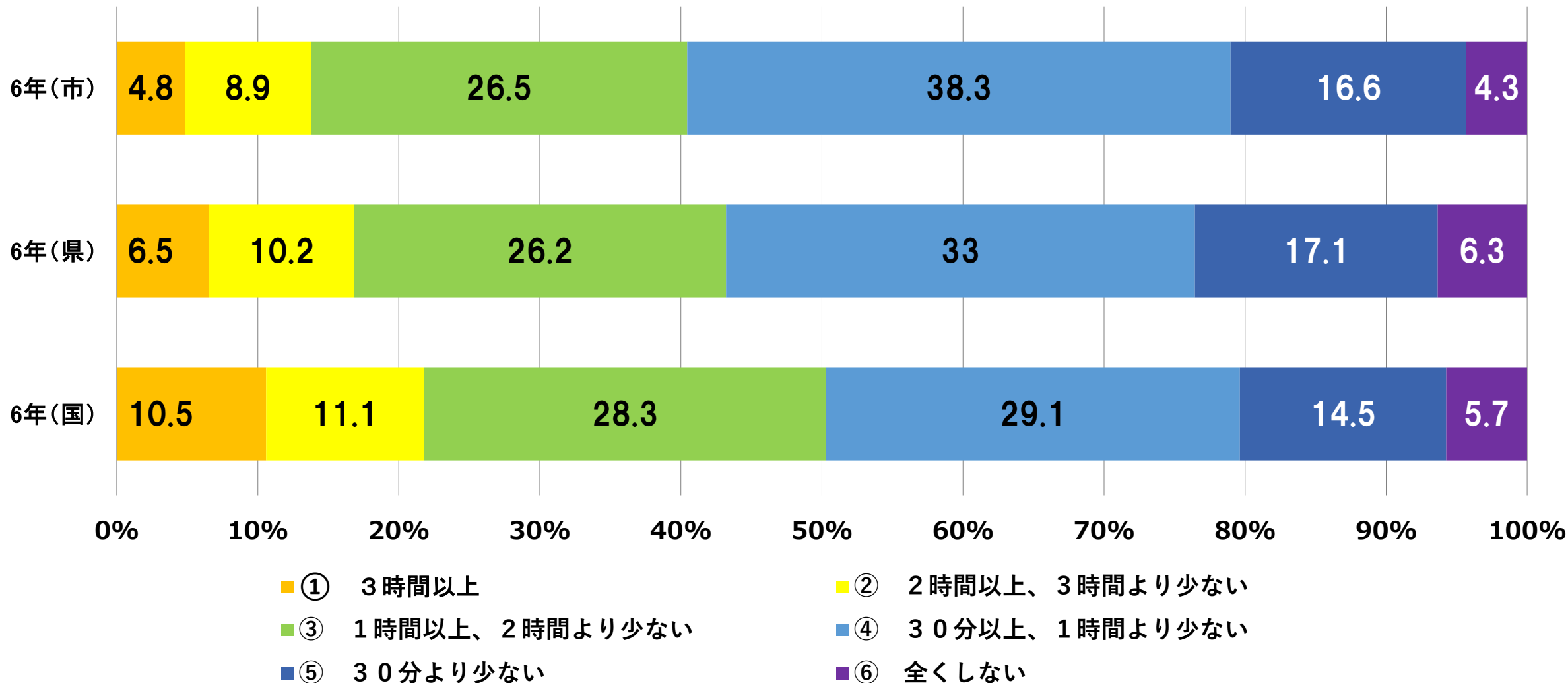
自分には、よいところがあると思いますか



分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（小学校）

- 平均正答率を見ると、国語は、全国を7.9ポイント下回り、県を3.0ポイント下回る結果であった。算数は、全国を6.4ポイント下回り、県を2.0ポイント下回る結果であった。昨年度よりも国語、算数とも学力低下がみられた。
- 国語は、昨年度と比較すると、高得点層が減少し、正答数が10問以上（問題数全13問）の割合は、県を4.5ポイント下回り、全国との10問以上の正答率の差も広がった。算数は、昨年度よりも13問以上（問題数全16問）の割合は減少しており、全国と正答率の差は広がった。国語も算数も低得点層の増加が見られ、全体的な底上げが課題となった。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度より6.7%下回っており、県・全国の割合を下回った。
- 意識調査の「分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対しては、肯定的な回答をした児童の割合は、昨年度同様8割以上であり、県よりは低い、全国より上回った。
- 意識調査の「学校の授業時間以外で1日当たりどのくらい勉強しているか」という質問に対して、今年度の6年生の児童が「1時間以上」と回答した割合は、県を2.7ポイント、全国を9.7ポイント下回り、昨年度より差が広がっており、課題がみられた。約4割程度の児童しか学年相当の学習時間の確保ができていない。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 正答数分布グラフに見られるように、低得点層と中間得点層の底上げが課題とみられた。今後、低中間得点層の底上げを継続して実施すると共に、学力向上について研修を行い、児童の実態に応じた支援を工夫していく。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための授業改善を継続して実施すると共に職員の授業力向上に努める。
- デジタルドリル等を十分に活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の身に付ける力の育成を中心に据えて、学習用端末を活用していく。

○意識調査の結果を受けて

- 「自分にはよいところがありますか」では、昨年度よりも肯定的な回答が減少した。今年度は、各学校で創意工夫し、児童の自己肯定感を重視した教育活動を進めていく。
- 家庭で「1時間以上の学習」している児童は4割程度と減少している。学年に応じた家庭学習時間の確保に努めると共に、授業内容と結び付けた学習内容を精選するなど児童が必要性和をもって主体的に取り組むことができる家庭学習の工夫を行っていききたい。

実態分析と改善に向けた 具体的な取組

武雄市 中学校（5校）全体

(1) 学習状況調査結果の推移（中学校）

R6 入学 現3年生	国語		数学		英語
	2年時	3年時	2年時	3年時	3年時
	県	全国	県	全国	全国
	56.4	60	46.7	50	463
	(0.92)	(0.97)	(0.89)	(0.93)	
R8 正答率の全国比		0.94		0.88	

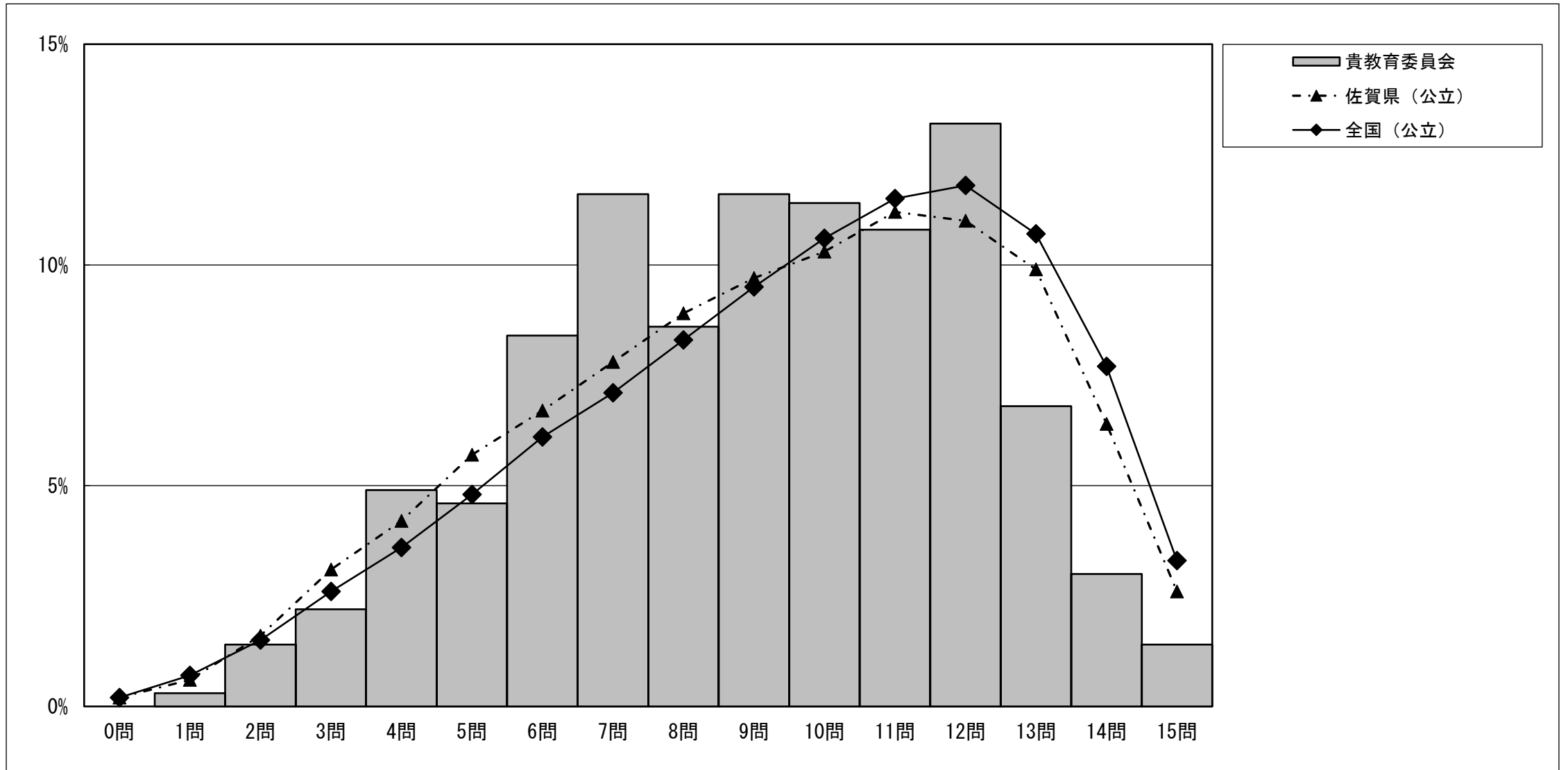
◎ 2年時は佐賀県小・中学校学習状況調査、3年時は全国学力・学習状況調査の推移。

◎ 上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較。

◎ 「令和8年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

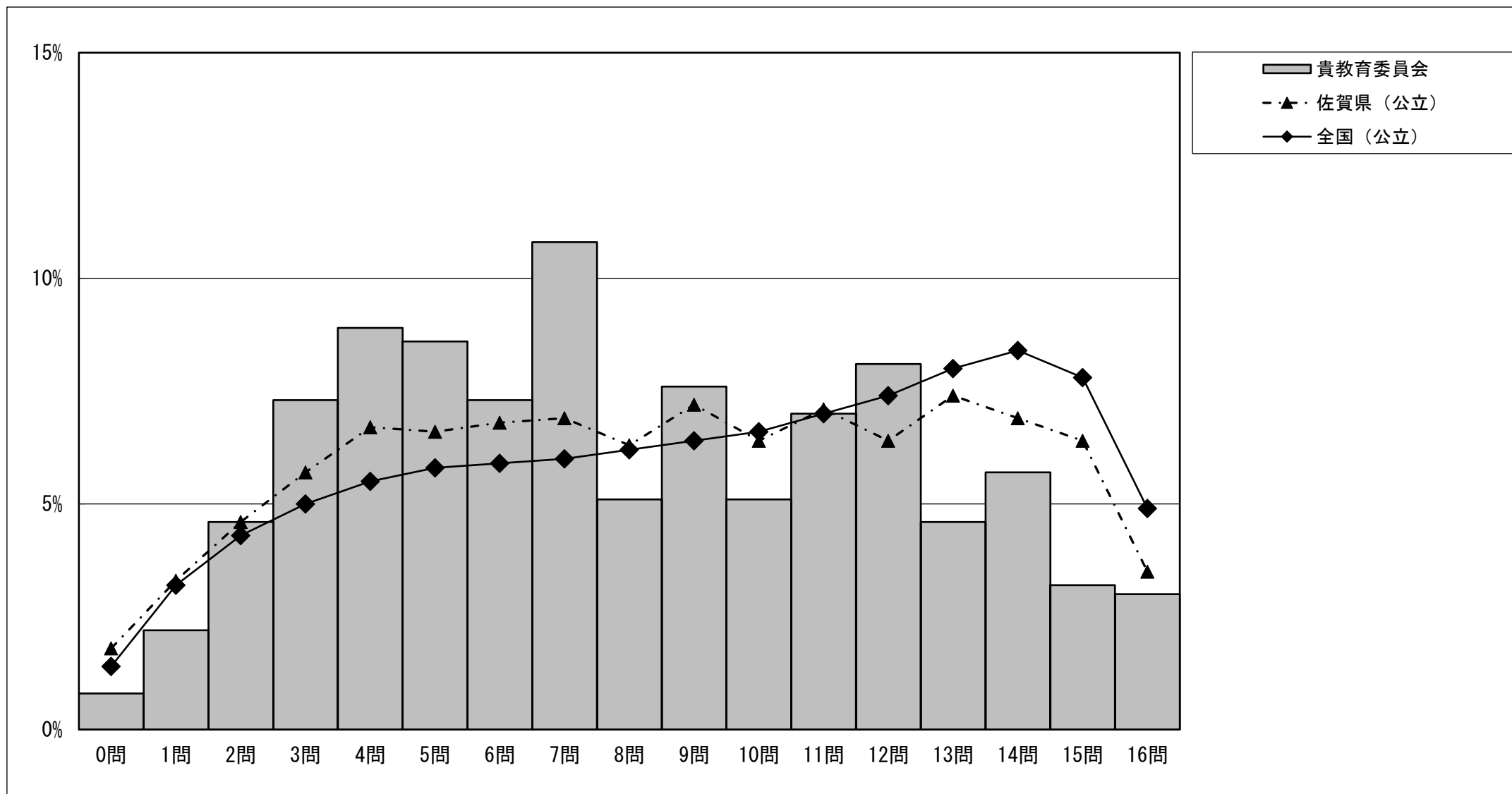
◎ 「中学校英語」は、3技能「聞くこと・読むこと・書くこと」を統合したIRT（項目反応理論）に基づいて算出したIRTスコアを表示。

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3国語）



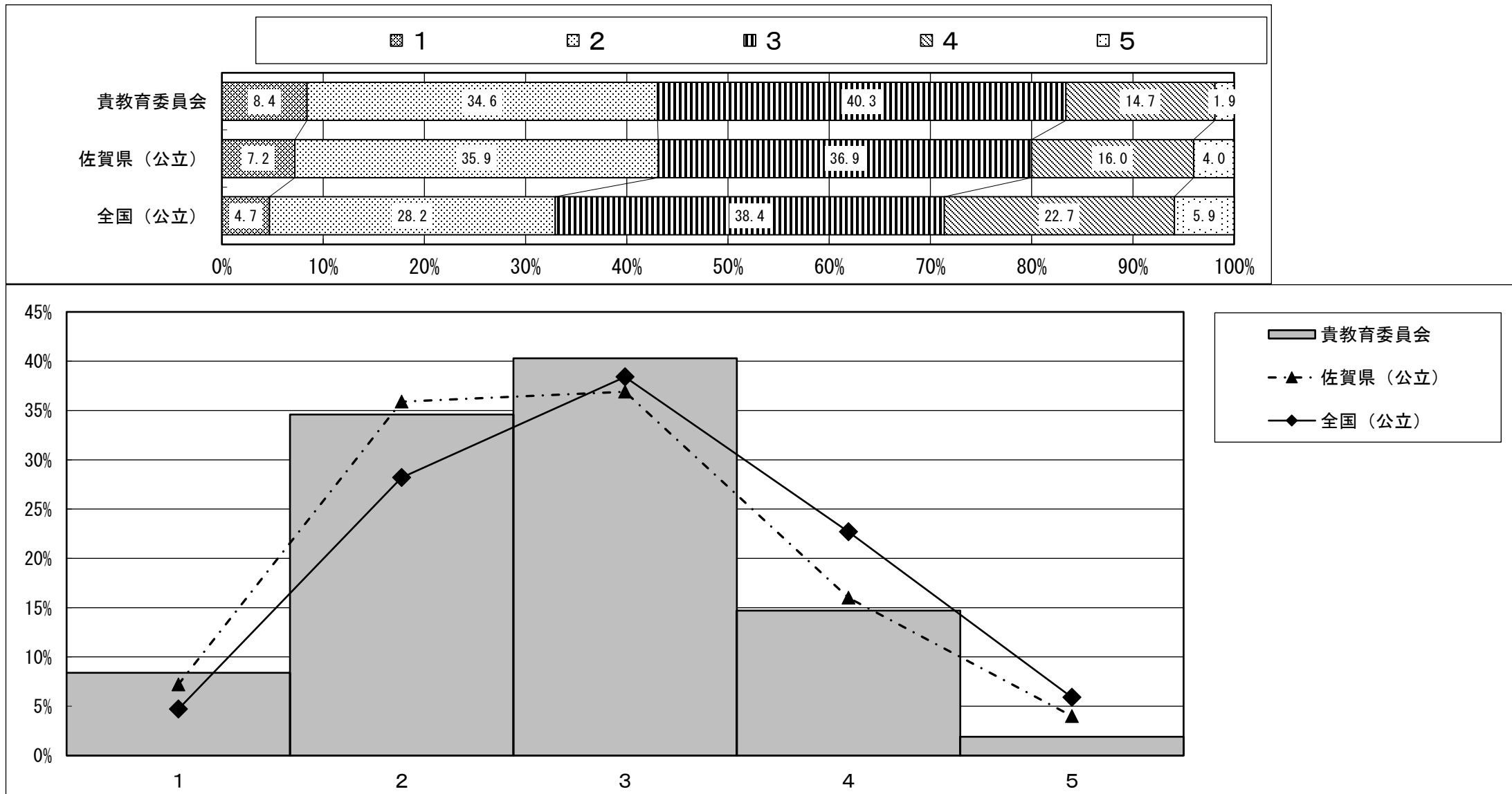
文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3数学）



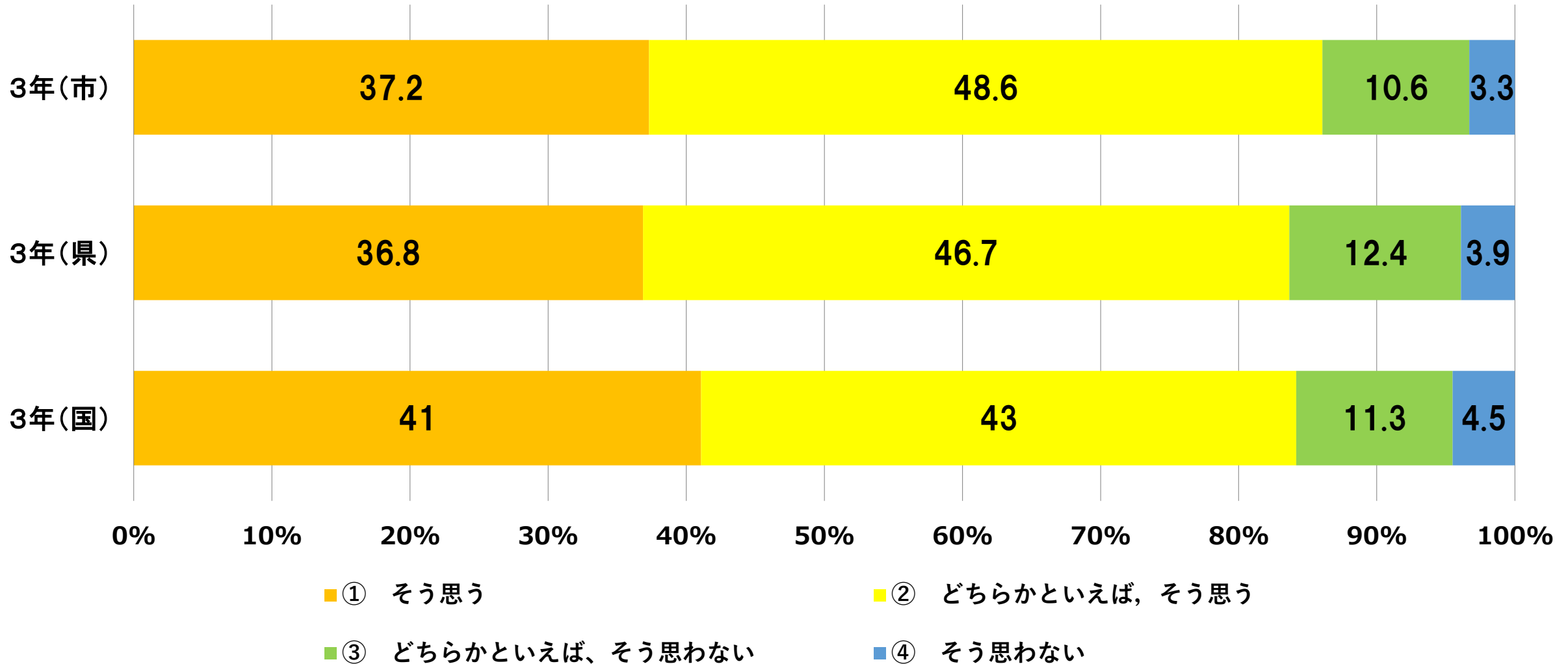
文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）（中3英語）

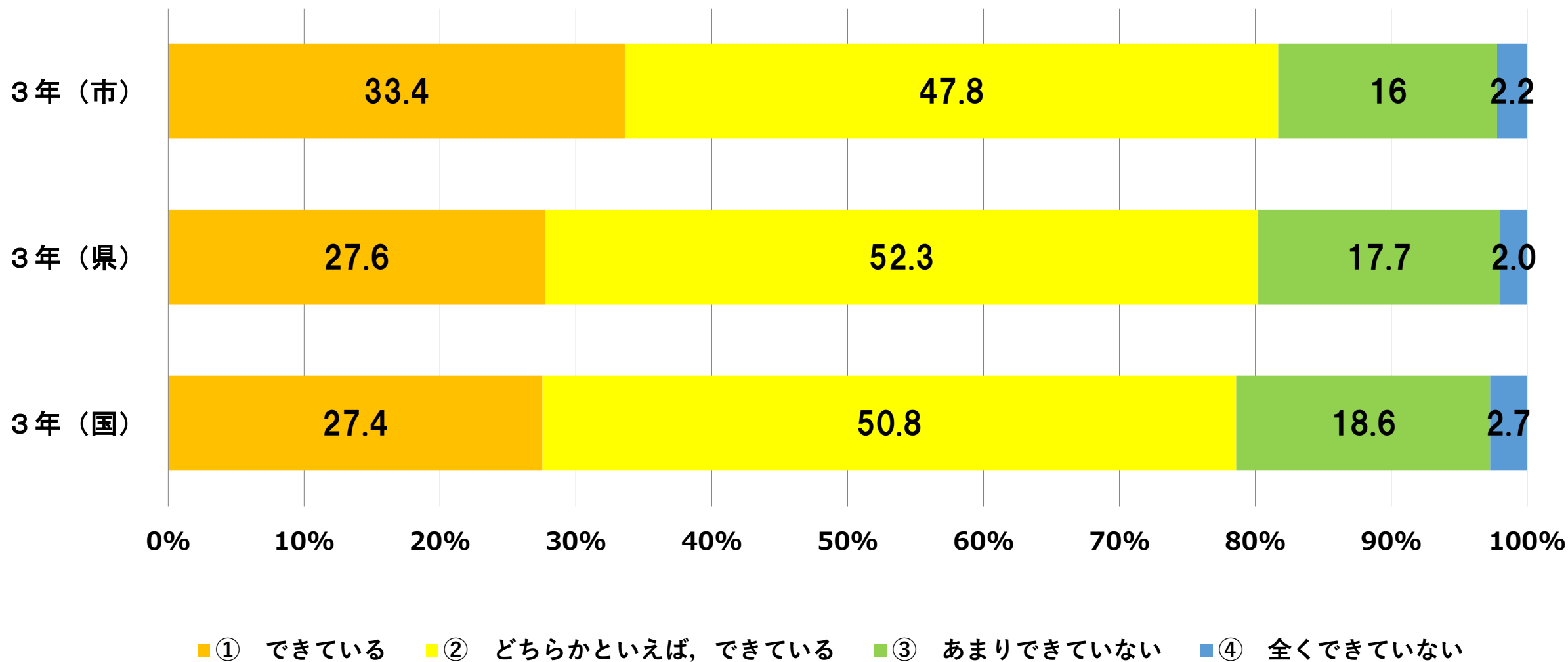


文部科学省 令和8年度全国学力・学習状況調査（中学校）結果より

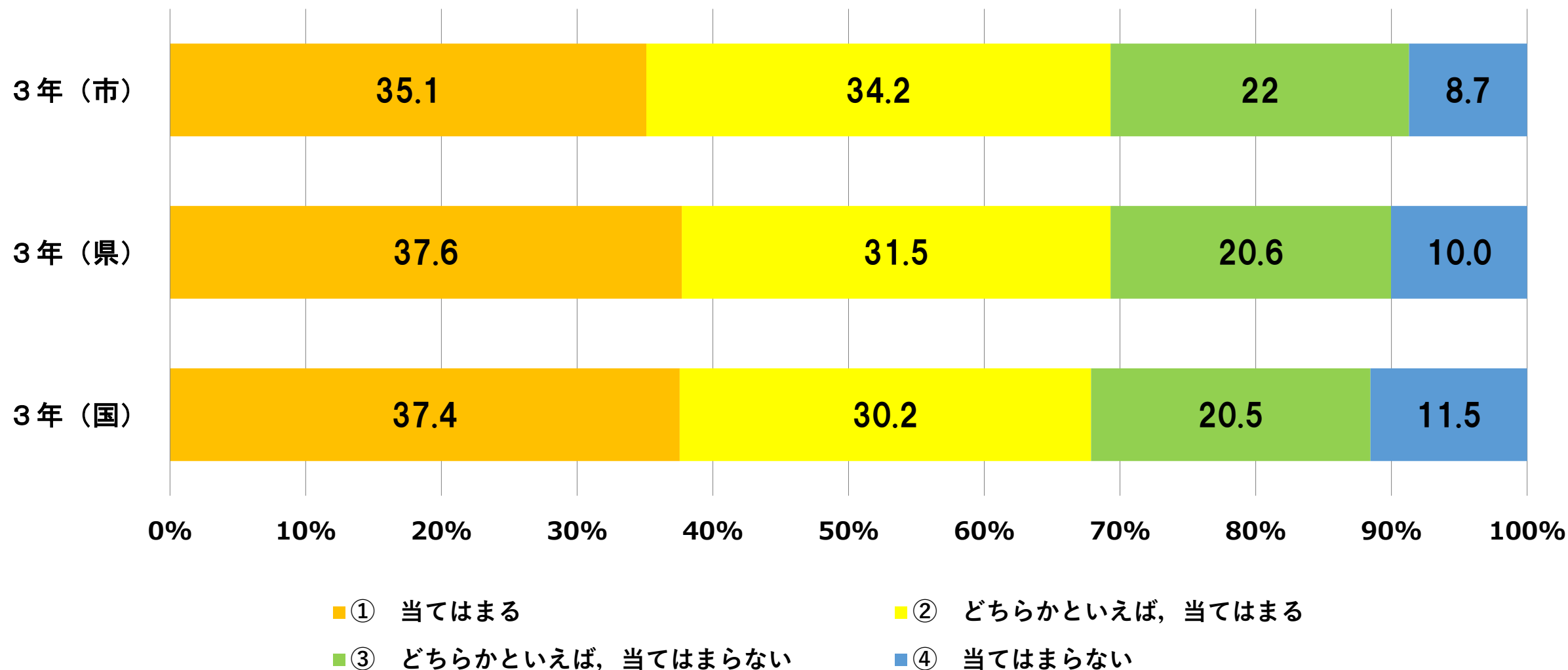
自分には、よいところがあると思いますか



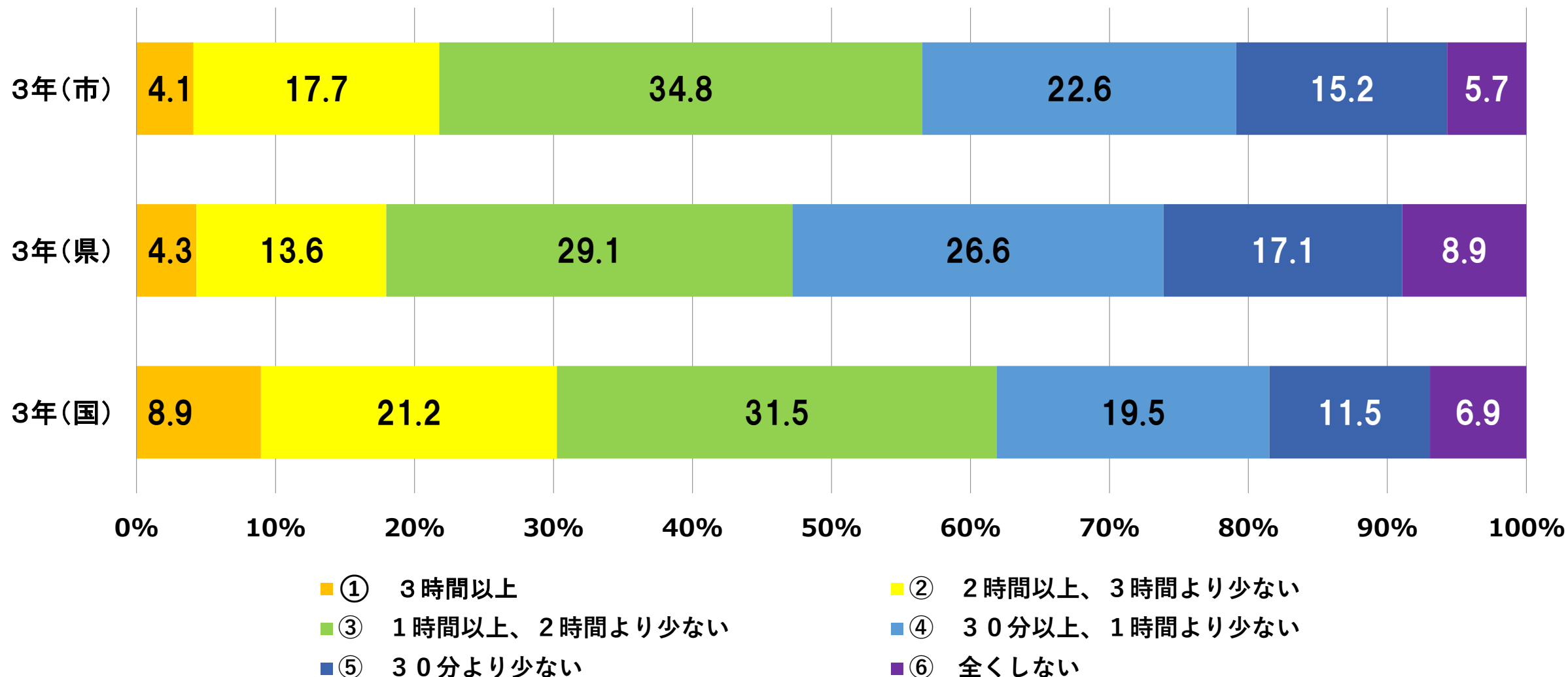
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



将来の夢や目標を持っていますか



学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれ
くらいの時間、勉強をしますか



(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態（中学校）

- 平均正答率を見ると、国語は、県を2.0ポイント、全国を3.9ポイント下回った。数学は県を4.0ポイント、全国を7.0ポイント下回った。昨年度と比較すると、国語は、県との比較では2.0ポイント、全国との比較では1.4ポイント上回り、上昇傾向が見られる。数学は、県との比較では1.0ポイント、全国との比較では、2.3ポイント昨年度よりも上回り、学力の向上が見られた。英語は、市のスコア分布は県と概ね同じ傾向にあるが、全国と比較すると、全体的に低く、課題が見られる。
- 各得点層を昨年度と比較すると、国語では高得点層の増加と低得点層の減少から全体的な層で学力向上が見られた。数学では、低得点層の減少が顕著に見られるが、県と全国との差から全体的な層の底上げが課題として見られる。
- 意識調査の「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対しては、昨年度は74.4%で、県を4.7ポイント、全国を6.9ポイント上回っており、今年度も、69.3%で、県を0.2ポイント、全国を1.7ポイント上回った。
- 意識調査の「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対しては、昨年度、県を1.7ポイント、全国を2.3ポイント上回っており、今年度も、県を2.3ポイント、全国を1.8ポイント上回った。
- 意識調査の「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」という質問に対して、肯定的な回答した生徒の割合は81.2%で、県や全国より数ポイント上回っており、自己調整して学びを進めることが着実にできている。さらに、家庭での学習時間（1時間以上）は、昨年度は、52.5%で、県を3.3ポイント上回ったものの、全国を9.1ポイント下回っていた。今年度は、56.6%で全国を5.0ポイント下回ったが、県を9.6ポイント上回り、家庭学習の時間はやや増加傾向が見られた。

2 改善に向けた具体的な取組

【以下の内容について各学校に通知し、共通の取組としていく】

○学習状況調査結果を受けて

- 数学と英語は、昨年度同様、低・中得点層の底上げに向けて取り組んでいき、考えや理由を説明する場面を重視していく。
- 誤答分析を行い、課題を明確にすると共に教科書の内容を生活や社会の事象に結びつけ、知識を活用して問題を解決する「活用型」の学習課題を全教科で重点的に取り入れていく。
- 学習指導要領がめざす「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る」ための授業改善を継続して実施すると共に職員の授業力向上に努める。
- デジタルドリル等を十分に活用し、基礎学力の向上を図りつつ、言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基礎となる資質・能力をさらに育成していくため、各教科の身に付ける力の育成を中心に据えて、学習用端末を活用していく。

○意識調査の結果を受けて

- 「自分にはよいところがありますか」では、中学校では8割5分を超え、これまで、各学校で生徒の自己肯定感を高めることを意識した教育活動の成果が見られた。引き続き、日頃の学校での生徒への関わり方を工夫しながら、生徒の自己肯定感の上昇につなげていく。
- 平日「家庭学習を1時間以上している」生徒の割合が56.6%で昨年度より上回っており、2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合が2割を超え、昨年度より上回っている。このことから、家庭学習の時間と学習内容の結びつきができつつあり、今後も生徒自身が必要性を感じる家庭学習の充実につなげたい。